

## 重要文化財松尾大社神前を横切る洛西用水路

— 京都府京都市 —

サンスイコンサルタント(株) 脇谷芳招

## I. はじめに

天下の名勝京都嵐山の渡月橋は年間を通して、四季の移り変わりを愛でる観光客で賑わっています。しかし、直上流の一ノ井堰(写真-1, 2)が農業用水の取水施設であると認識している通行人は稀のようです<sup>1)</sup>。

私の洛西用水との遭遇は、昭和63年に洛西用水の水利施設再整備にかかる設計業務に主任技術者として携わったことが発端になっています。

表紙写真は、一ノ井堰から取水している洛西用水路が国の重要文化財松尾大社の境内を横切っている区間を撮影したものです。この清艶な水面には、時空を超えた悠久の想いを巡らせるものがあります。

## II. 洛西用水の来歴

1. 沿革<sup>2)</sup>

洛西用水の歴史は非常に古く、5世紀頃、大陸からの帰化人秦氏<sup>はたうじ</sup>によって農地が開かれ、産業を起こされたことに由来しています。

第二次世界大戦後の食糧難を解消するため、昭和22年に洛西普通水利組合が結成され、桂川兩岸1,600 haおよび嵯峨地区175 haの用水確保と久我地区以南の常時湛水地域の内水排除が図られています。

昭和26年に洛西普通水利組合から洛西土地改良区に組織変更され、府営洛西農業水利改良事業により、

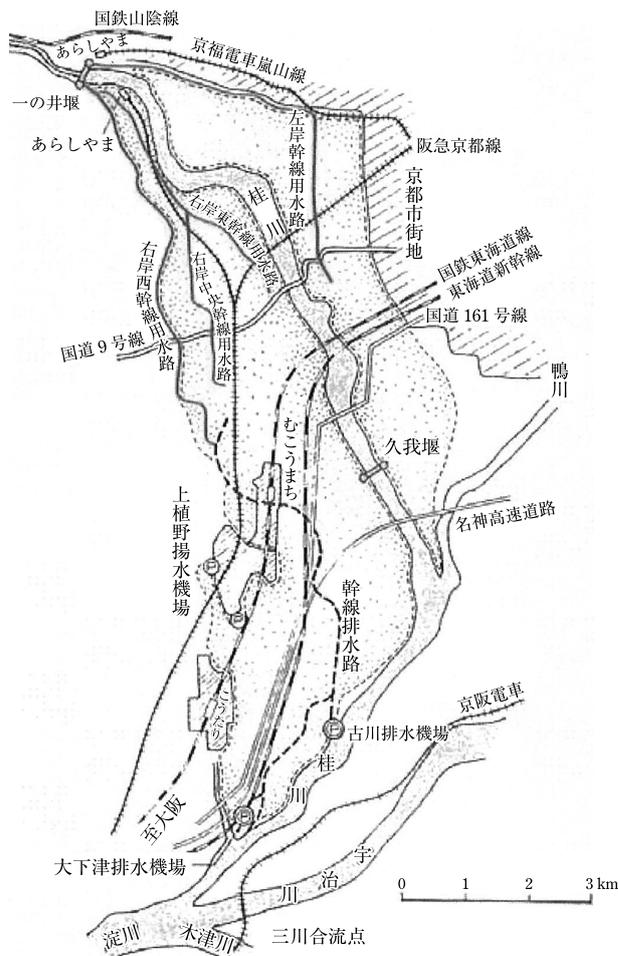
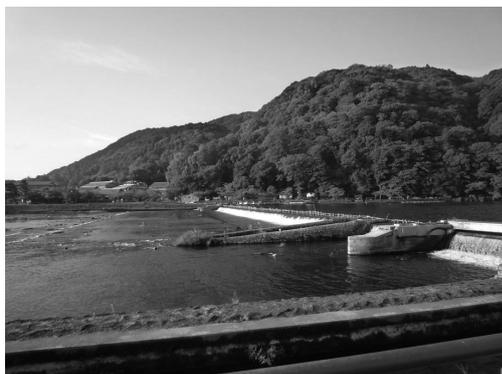
図-1 府営洛西農業水利改良事業の概要図<sup>3)</sup>

写真-1 一ノ井堰を左岸側から望む



写真-2 一ノ井堰を右岸取水路から望む(右後方は渡月橋)

一ノ井堰、古川排水機場、大下津排水機場、上植野揚水機場、用排水幹線水路が竣工し、昭和40年に事業が完了しました(図-1)。

## 2. 秦氏の渡来

諸説がありますが、応神14年に秦の始皇帝の末裔とされる<sup>ゆづきのきみ</sup>弓月君が百済の120県の人民を率いて渡来し、山背国葛野郡(現在の太秦)<sup>うずまさ</sup>を本拠地として、土木や養蚕・機織などの技術力を発揮し、秦氏の祖として栄えたと伝えられています<sup>4)</sup>。学術的には確定されていませんが、応神天皇は実在の可能性が高いとされており、その年代は4世紀末から5世紀初頭と推定されています<sup>5)</sup>。

山城盆地には秦氏の首長墓と推測される古墳群が形成され、たとえば、太秦に現存する国指定史跡の蛇塚古墳は、7世紀頃に築造された前方後円墳とされています。保存されている横穴式石室(写真-3)は国内最大規模を誇り、奈良県明日香村の石舞台古墳と並び称されています<sup>6)</sup>。

## 3. 古来の洛西用水路

秦氏が一族をあげて葛野大堰を築造したのは5世紀後半で、その位置は現存する一ノ井堰近傍とされています<sup>7)</sup>。秦氏が地域を開拓した際に治水の神として祀ったのが起こりとされる大井神社<sup>8)</sup>も、変遷は不詳ですが、渡月橋左岸三条通に面して現存します(写真-4)。ただし、現在の社殿は嵯峨野の野宮神社の旧社殿を移築<sup>9)</sup>したものだそうです。

時代が下りますが、古来の桂川井堰かんがいを示す絵図(図-2)が国宝東寺百合文書に残されています。この絵図は、水の利用を巡って桂川東岸の石清水八幡宮領の荘園が、西岸の東寺領の荘園により新しい取水口が開かれたことを幕府に訴え、その中で明応5(1496)年に幕府に命じられて作成したと伝えられています<sup>10)</sup>。

江戸時代初期には、大井神社を篤く信仰していたとされる豪商角倉了以が葛野大堰周辺を再整備し<sup>11)</sup>、大堰川(渡月橋上流区間の呼称)の左岸に展開する嵐山公園に立像(写真-5)と石碑が建立されています。

## 4. 松尾大社

秦氏が創建に関係したとされる松尾大社(写真-6)は、太古の昔に周辺一帯の住民が松尾山の山霊を頂上近くの磐座<sup>いわくら</sup>に祀って崇拜したのが始まりと伝えられています<sup>12)</sup>。松尾山山麓の現在地に神殿が造成されたのは文武天皇の大宝元(701)年とされ<sup>12)</sup>、宮廷文化花盛りの平安時代に清少納言が「枕草子」で「神は」として八社を示していますが、松尾大社がその筆頭に挙げられています<sup>13)</sup>。また、松尾大社境内は関西地方随一の山吹の名所ですが<sup>14)</sup>、「枕草子」で「おほきにてよきもの」として山吹の花が挙げられています<sup>15)</sup>。



写真-3 蛇塚古墳の横穴式石室



写真-4 大井神社

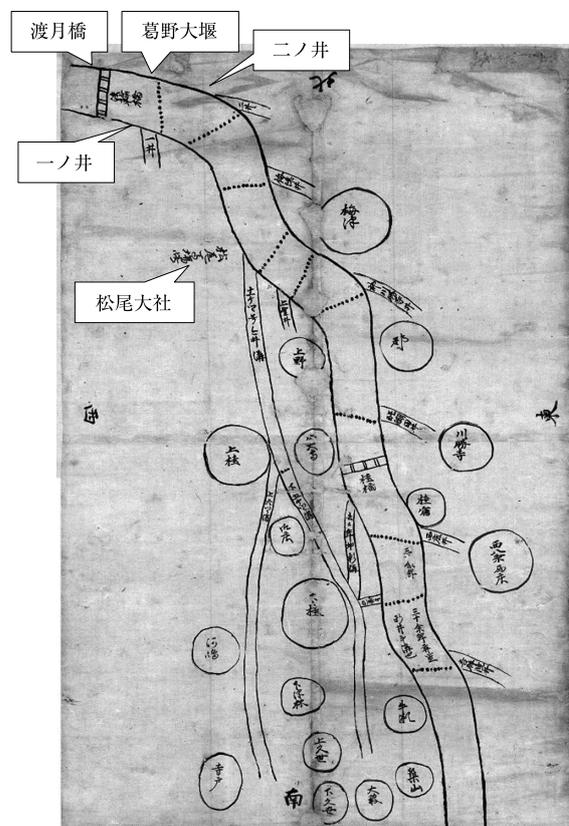


図-2 山城国桂川用水差図案に加筆



写真-5 角倉了以像

嵐山嵯峨野に鎮座する車折神社の御祭神は天武天皇の子孫とされる清原頼業ですが<sup>16)</sup>、同族の清少納言が祭られている清少納言社が境内の一隅を占めています。車折神社の「三船祭」が、毎年5月に平安時代の舟遊びを再現して一ノ井堰直上流で王朝絵巻を繰り広げ、選ばれた女性が扮する清少納言が新緑の嵐山に華を添えます(写真-7)。

#### 5. 松尾大社の「おまつり」

松尾大社では、貞観年間(859~877年)に始まった「松尾祭」が葵祭とも呼ばれ、4月に「神幸祭(出御)」、5月に「還幸祭(還御)」として執り行われます。

松尾祭は一般的には、神幸祭の桂川渡河が目されますが、松尾大社氏子中では「おまつり」といえば還幸祭を意味するとされています<sup>17)</sup>。

4月の神幸祭では、松尾七社(大宮社、月読社、宗像社、櫛谷社、三宮社、衣手社、四之社)の神輿・唐櫃が松尾大社に集結し、祭事の後に境内を出立して桂川を渡ります。それぞれ定められた御旅所へ移った後は3週間留まってお祭りされ、その後の還幸祭では、早朝にそれぞれの御旅所を出発した七社の神輿・唐櫃が、平安京正門とされる旧羅城門西側の西寺址に集合します。

西寺址での古例にのっとりた祭典の後は、七条通りの朱雀御旅所(写真-8)に向かい、ここでも神事が執り行われ、各社特有の祭事を参拝客が見守ります。早朝から松尾大社帰還後の神事終了まで、目が離せないのです。

還幸祭の2週間後には、五穀豊穰を祈願する「御田植式」が松尾大社境内で執り行われます(写真-9)。その後、7月に虫除け行事の「御田祭」、10月に稲刈りの「抜穂祭」と続きます<sup>18)</sup>。

#### 6. 現存の洛西水路

昭和20年代の食料増産を命題にした府営洛西農業水利改良事業により、桂川の10カ所以上の取水口が一ノ井堰に統合され、再整備された幹線用水路は左岸



写真-6 国の重要文化財松尾大社本殿



写真-7 三船祭の清少納言



写真-8 松尾祭、還幸祭、朱雀御旅所



写真-9 松尾大社境内での御田植式

幹線用水路 5.9 km, 右岸幹線用水路総計 15.0 km にもなります<sup>3)</sup>。

昭和 40 年完了の府営洛西農業水利改良事業では、一ノ井堰の土砂吐ゲートの操作室は左右岸にそれぞれ設けられていました。写真-10, 11 は、昭和 63 年の現地調査時に渡月橋左岸<sup>たもと</sup> 袂で撮影しました。左岸側操作室は藁<sup>わら</sup>囲いでカモフラージュされており、公衆電話ボックスにも周辺環境への配慮を示した意匠に工夫が窺えます。

老朽化した洛西用水の水利施設は平成元年以降に、手廻しで運用していた主要ゲートが電動化されるなど再整備され、洛西土地改良区事務所を親局とする集中管理システムが導入されています<sup>2)</sup>。

残念ながら、近年の混住化・都市化の進行により、昭和 20 年代の桂川兩岸 1,607 ha の受益地が、現在は嵯峨清滝用水・久我用水を併せても 464 ha まで激減し、受益戸数も減少して、管理主体である洛西土地改良区<sup>じんかい</sup>では幹線用水路の管理、特に堆積土砂や流入塵芥の排出に苦慮しているとのこと<sup>19)</sup>。現在供用中の集中管理システムは管理対象が拡張されて<sup>20)</sup>、平成 22 年度に更新されています<sup>2)</sup>。

### III. おわりに

農業就業者の高齢化と激少、耕地面積の激減、水利施設の老朽化など、昨今から指摘されている諸問題が洛西用水にも大きく影響しています。さらに、歴史的な特色を持つ地域であることから、多面的機能の維持・発揮が求められ、用水管理・施設管理に携わっておられる方々の御苦勞が偲ばれます。

本稿の執筆に当たり、中村安之元京都府農林部耕地課長(元サンスイコンサルタント(株)顧問)、山本修三洛西土地改良区事務局長のお二人から貴重な示唆をいただきました。撮影写真の使用に当たっては、松尾大社社務所、洛西土地改良区事務所、ほか関係機関からの御厚意をいただいております。ここに記して謝意を表します。

#### 参 考 文 献

- 1) 藤原正幸：池干しの広沢池—京都府京都市一、水土の知 85(11), pp.64~65 (2017)
- 2) 洛西土地改良区：洛西土地改良区概要書 (2012)
- 3) 京都府：府営洛西農業水利改良事業概要書 (1965)
- 4) 坂本太郎, 家永三郎, 井上光貞, 大野 晋校注：日本書紀 (二), 岩波書店, p.204 (1994)
- 5) 林屋辰三郎：京都, 岩波書店, p.30 (1962)
- 6) 京都市：蛇塚古墳, 史跡案内板
- 7) 一ノ井堰並通水利組合：一ノ井堰碑銘文 (1980)
- 8) 京都風光：大井神社, <https://kyotofukoh.jp/report>



写真-10 左岸側土砂吐ゲートの旧操作室



写真-11 渡月橋左岸袂の旧公衆電話ボックス

391.html (参照 2019 年 6 月 13 日)

- 9) 大井神社宮司：大井神社駒札
- 10) 京都府立京都学・歴史館：東寺百合文書 WEB：百合百話, 51. 水を求めて in 桂川その 1, <http://hyakugo.kyoto.jp/hyakuwa/51> (参照 2019 年 5 月 3 日)
- 11) 角倉了以翁像碑保存会：角倉了以翁の業績, 石碑銘文 (1988)
- 12) 松尾大社社務所：案内パンフレット
- 13) 清少納言著, 池田亀鑑校訂：枕草子, 第二八七段, 岩波書店, p.315 (1962)
- 14) 毎日新聞京都版：ヤマブキ 色も香りも楽しんで 松尾大社で見ごろ, 2019 年 4 月 20 日朝刊
- 15) 清少納言著, 池田亀鑑校訂：枕草子, 第二三三段, 岩波書店, p.266 (1962)
- 16) 清少納言社：駒札
- 17) 松尾大社：松尾祭・「神幸祭(おいで)」 「還幸祭(おかえり)」, <http://www.matsunoo.or.jp/event/event04/> (参照 2019 年 5 月 3 日)
- 18) 松尾大社社務所：神撰田行事予定掲示板
- 19) 洛西土地改良区事務局長：談話 (2019 年 1 月 16 日)
- 20) 洛西土地改良区：農業水利システム保全計画書(案)洛西地区 (2009)